



市民の皆さんに、海外の文化に接し、現地の方との交流を通して、国際的な感覚を養ってもらおうと、1月31日から2月5日までの6日間、『いよし国際交流の翼』を実施しました。10回目となる今回は、ベトナム中部にあるミーソン・ホイアン・フエの世界遺産と首都ハノイを訪問しました。

特集 いよし国際交流の翼 ベトナム訪問記

南シナ海に沿って南北に長く伸びる国、ベトナム。この国は、ベトナム戦争からアメリカが撤退する1973年までの長きにわたり、中国やフランスなど外国の支配を受けるという苦難の歴史をたどりました。1976年の南北統一後、1986年からは、ドイモイ政策により市場経済が導入され、1990年代には、外国投資が増加し、年7〜8%を超える経済成長を遂げました。一方で、貧富の差の拡大や環境汚染など経済発展に伴う問題も抱えています。

ベトナムと日本の交流の歴史は古く、今回訪れた中部のホイアンには、17世紀に朱印船貿易で来航した際の日本人町の遺構も残っています。また、現在もベトナムへの日本企業の進出は、目ざましいものがあります。

東南アジアならではの活気に満ちながら、ゆったりとした時間の流れるベトナム訪問の感想を参加者に報告してもらいました。



★ ★ ホイアンの小学校

を訪れて

武智桂子さん(米湊)



今回の訪問校は、ホイアン公立学校のリートウチユン小学校です。「いよし国際交流の翼」とローマ字で書かれた横断幕が張られ、バスが学校前に到着するやいなや、力強い打楽器演奏が響きわたり、校門をくぐった両側には、正装をした生徒たちが手に手に風船や花束を持つての盛大な歓迎を受けました。副団長の大家塚さんが、手渡して文具をプレゼントすると、子どもたちは満面の笑みで受け取ってくれました。

の生徒は60人、先生は50人で、制服のきまりはなく、私服の様子でした。ミン・ジュン校長先生のお話では、子どもたちから愛国精神を厳しく教え、みんなでがんばっているそうです。1年生から英語の授業があり、来年からは、コンピュータを取り入れたいとのことでした。小学校は5年生までで、義務教育の授業はお昼までと聞いていましたが、この学校では、政府が決める2年も前から自己負担で給食を始め、午後の授業もしていました。

教室を拝見すると、子どもたちは、2人掛けの机といすに並んで座っていました。机の上には、本やノート、鉛筆のほか、小さな黒板をそれぞれが持ち、チヨークで英語を書いて、高く掲げて先生に見せていました。各教室の入り口には、コップと水が用意されていました。

ドーンと太鼓の合図で休憩時間となり、みんなが一緒に教室から出てきて、ドンドンと太鼓に合わせ、体操が始まりました。その後、輪になって歌いながら民族舞踊を踊りました。その様子をビデオで撮っていると、大勢の子どもたちが瞳を輝かせながら

のぞき込んできました。カメラを子どもたちの目線まで下ろしてみせると、みんな興味津々でしたが、ドーンという太鼓の合図でしぶしぶこちらを振り返りながら教室へと戻っていききました。

この子どもたちが将来のベトナムを担って活躍し、何年か先には、随分発展していることでしょう。同じアジアの仲間としてエールを送りたいと思います。



★ ハノイ平和村訪問

ベトナム戦争終結から30年以上経つ今もなお、戦争の傷跡は各地に残っています。

「ハノイ平和村」は、ベトナム戦争で使用された枯葉剤の影響で、障害を持って生まれた子どもたちが、共同生活を送りながら、自立の道を見つけるための施設です。1991年、ドイツ政府と民間NGO団体により設立されました。

子どもたちは、私たちの訪問をとても喜んでくれ、人懐こい笑顔で、自分たちが編んだ腕輪を訪問したひとりひとりの腕につけてくれました。

私たちは、この子どもたちの未来が明るいものになってほしいとの願いを込めて、庭の一角に5本の桃の木を植樹しました。



ベトナム訪問記

私たちは国際交流の翼41人は、日本に関心があり、日本語を勉強しているベトナムの若者をホテルにお招きして、夕食を共にしながら交流会を持ちました。2月3日の夕べのことです。最初は、ベトナムの青年が舞台の上で横一列に並び、日本語での自己紹介から始まりました。「私は○○です。どうぞよろしく。」から始まり、多く語る若者、それだけで終わる方、それぞれの個性が出てくるようでした。日本語教師の野島真紀先生の下で2年くらい習ったそうですが、発音もきれいで、聴



★ **日本語を学ぶ** ★
 仙波政雄さん(下吾川)

明感あふれる人々で、さすがベトナムの若者たちだと感じました。その交流会の様子のごく一部を紹介いたします。

舞台上でのあいさつの後、若者たちは、7つのテーブルに2人〜3人ずつが分かれて着席し、乾杯、自己紹介が始まりました。最初は固くなっていたと思いますが、時間が経つにつれて、笑い声も混じり始め、にぎやかになってきました。伊予市代表の方の吟詠黒田節が披露されると、交流会も盛大になり、各テーブルの方も移動して、ほかのテーブルの方との親睦を深め合っていました。ベトナムの青年も大学生から会社員、小学1年生の子どもを持つ母親、姉妹等日本に関心を持つ人々は、多彩でした。

自己紹介は、名字ではなく、ファーストネームでした。例えば、「ハーさん」は「HA」で、漢字では、「河」と書くそうです。お互い解り合つたためにいろいろ工夫や努力をされました。絵で説明する、英語を使う、折り紙細工をする、雪を知らない青年にその説明をするなど、全員必死で話を進めていました。

終わりが近づくとつれて、今後の連絡のために住所や



メールアドレスの交換と話し進みました。「日本語は難しいけれど、日本人と直接お話できて、非常にうれしかったです。」との感想の声を聞きました。青年は、日本をテレビアニメや映画で知ったそうです。日本へ行くことに憧れていました。最後にみんなで「上を向いて歩こう」を大合唱して閉会となりました。



▲ホイアンにある来遠橋(日本橋)の前で(この橋は1593年、日本人によって架けられたと言われている。)

▶青年海外協力隊員として、ベトナムに在住している鈴木智香子さんから世界遺産の支援活動について講演を受けた

▶JETRO(日本貿易振興機構)ハノイ事務所の高野光一さんにはベトナムの経済状況などについて講演していただいた

